

日本を「作ってきた」責任は誰にある 自民党か国民か

米問題 年金 少子化 事実婚 選択的夫婦別姓 国防と災害対策 消費税 国民の不満が最高潮に 今の日本を作ってきたのは自民党であり有権者 少数与党になって話し合いが増えたことは、やっと良いと気がついたのか

ChatGPT:

ご指摘の通り、現在の日本が抱える多くの構造的課題(米問題、年金制度、少子化、家族制度、災害・防衛・財政問題)を長年形作ってきたのは、政権与党として続いてきた自民党、そしてそれを容認・選択し続けてきた有権者の集合的判断の結果です。

以下、論点を整理しつつ掘り下げます。

今の日本を「作ってきた」責任は誰にあるのか

要素	内容	誰が責任を負うべきか
長期政権	自民党は 1955 年以降、ほぼ常に政権与党(非自民政権は数年程度)	政策形成・実行責任は自民党にある
有権者	多くの国政選挙で自民党を選択	主権者としての選択責任(政治的無関心含む)
野党の弱体化	政策立案能力・実行力の不足、不祥事など	対案提示・政権担当能力の欠如
メディア	政治報道の浅さ、対立煽り型の報道、深掘り不足	公共的な議論を深める責任

現在の主要な国民不満の争点

問題	不満の具体例	背景・課題
米問題(農業)	農家の高齢化、耕作放棄地、輸入依存	構造改革が進まず、補助金依存体制
年金	若年層「どうせもらえない」、高齢層「少ない」	少子高齢化で制度維持困難
少子化	教育・住宅費が高すぎる、保育の不安	政策の場当たり感、根本解決なし
事実婚・夫婦別姓	法制度が追いつかない、保守的な価値観	国民意識と法制度のズレ
国防・災害	有事対応の不安(台湾有事、地震、豪雨)	訓練・インフラ・国民意識の遅れ

問題	不満の具体例	背景・課題
消費税	所得が少ないほど負担感が重い	軽減税率も不公平、逆進性
政治と金	政治資金パーティー、裏金	長年の「馴れ合い体質」

👉 「少数与党」になって見えたこと

今、自民党が単独過半数を失う可能性が現実味を帯びたことにより、日本政治に以下のような新しい兆しが見られます。

変化	意味
政策協議が増加	与野党間で対話せざるを得ない
異なる価値観の可視化	多様な声(LGBTQ、女性、非正規雇用者)が国会内で議題に
メディアや国民の政治意識の変化	「話し合いが必要だ」と実感し始めた段階
市民運動・SNS の影響力拡大	草の根の意見が議員に届く機会が増えた

🗣️ 結論：民主主義とは「結果責任を共有する制度」

「自民党が悪い」だけでは済まない。

「それを支持し続けたのは国民であり、変えられるのもまた国民」。

そしてようやく、**「話し合う政治」「多様な意見を受け入れる政治」**の必要性に、遅ればせながら社会全体が気づき始めたのかもしれません。